

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192300024		
法人名	有限会社こすもすケアセンター		
事業所名	グループホームこすもすの森		
所在地	岐阜県養老郡養老町有尾88番地		
自己評価作成日	平成27年6月20日	評価結果市町村受理日	平成27年9月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2192300024-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な環境で利用者・職員は共同生活を行っていく。地域住民との交流を積極的に行い、利用者がその有する能力に応じ、自立した楽しい日常生活を継続できるよう支援を行っていく。職員と利用者家族との関係を深め、利用者と家族の絆をより強いものにする。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人の代表者は、歴史ある寺の住職である。利用者の多くは、知り合いでもあり、馴染みの関係である。利用者は、地域と密接につながり、家庭的な環境の中で、尊厳のある自分らしい生活を営んでいる。そして、笑いを絶やさず、穏やかである。地元住民も、利用者を見守り、気軽に声かけ、話し相手をしてくれる様子は、日常的である。管理者は、看護師であり、地元の民生委員でもある。住民からは、信頼が高く、福祉相談に、熱心に応じている。職員は、働きがいのある職場環境の中で、ゆとりを持ち、利用者の能力を支え、自立した生活が継続できるように実践をしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4つの理念は玄関先に提示されており職員は出勤時に再確認している。グループホームの理念は事業者の理念として各事業所にも提示されている。	理念は「尊厳のある生活・家庭的な生活環境・楽しみ・笑顔」と掲げている。管理者と職員は、地域密着型の意義を日々振り返り、利用者の尊厳と家庭的な生活環境を整え、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校との交流会、中学校の資源回収への参加、地域住民と共同の防災訓練等、地域の一員として交流しています。	自治会員であり、地域の行事や奉仕活動に参加をしている。運営者は、寺の住職であり、住民とは、古くからの付き合いである。周辺の工場従業員が、利用者の見守り役を引き受けたり、地元の小・中学生とも、日常的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お問い合わせ、入所の申し込み、施設の見学等に対して快く受け入れをし、丁寧に説明するように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告をふまえ、事故のないようにして欲しいという利用者家族からの意見を受け、ケア会議等で再発防止の為の改善案を出しそれを実行している。	運営推進会議は、隔月に開催をしている。運営の現状や行事予定などを報告し、意見を交換している。出席者から、事故防止や外出支援、食事内容について意見があり、改善案を検討し、サービスの向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加要請を必ず行い、実情の報告もその都度、行っている。	運営推進会議には、市の担当者の参加がある。その際に、事業所の実情を伝え、困難事例などで助言を得ている。法改正についてや、他の事業所の取り組みや成功例、アイデアなどの情報を交換し、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全性を確保するための施錠はやむを得ないが、必要以上の施錠は行っていない。身体拘束は行っていない。	身体拘束をしないことを、周知・徹底し、拘束の弊害を学習している。安全上やむを得ない場合は、そのリスクを、家族と共有している。一人ひとりの抱えている不安要因の解消に努め、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護において、虐待と認識できる行動は相互関係の都合上発生する場合があります、その場合は、ケア会議にて検討することになっている。虐待についての勉強会も実施している。		

岐阜県 グループホーム こすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	大半の利用者が今後(法律行為を行う等により)成年後見制度が必要になる。金銭面の相談を受ける事もあり、適切に回答することは困難であり地元金融機関とも時々相談をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をしているので、署名や捺印を頂いていると認識している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族から、利用者に関する職員への要望に関しては傾聴し職員内で出来る事は申し送りノートに記載し、情報を共有している。	家族の訪問時や電話等で、意見、要望等を聴いている。また、申し送りノートにも記載して、職員全体で共有し、様々な要望を、職員間で話し合い、管理者は、できるものから、速やかな実現につなげている。	利用者の生活ぶりや支援内容を掲載したホーム便りを送付し、家族の理解を得るように努めている。さらに、内容を工夫し、信頼関係が、より深まるように期待をしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改善提案についてはいつでも気軽に話して頂いている。即時対応が困難な提案については、ケア会議や事務所への稟議書として提案している。	管理者は、職員と同じ勤務体制時や日常的にも、意見や提案を聞いている。また、代表者が参加する職員会議時にも、設備の不具合、より良いケアの工夫、イベント企画、また、職場環境の改善についても提案し、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回、勤務評価を行っている。本人の思い等をアンケート方式にて記入してもらっている。その意見は社員会議にて反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回、県やその他の機関が行っている研修会への参加を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており他のグループホームとの交流・意見の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化は言葉だけで伝えることは困難であるので、インテークの際は、決して不安にさせるような発言は避けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な事、要望は必ず聞いている。最初は不安ばかりであるので、納得がいくまで聞いてもらうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最優先の課題をアセスメントの段階で職員と共有するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	既に入所されている方々は職員の顔も覚え、家族のような自然体でアットホームな暮らしを支援していると認識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に訪問された家族には、積極的に利用者の現状を話すようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人による面会もあり、馴染みの場所については家族に依頼し、外出支援を行って頂いている。	地域住民や知人が、日々訪れ、野菜を届けてくれるなど、馴染みの関係ができています。代表者の寺は、歴史が長く、馴染みの場でもある。買い物や美容院などには、家族に協力を依頼して、希望が叶うようにつないでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、同じ生活の場であるという認識が強くなっているが、人間関係の悪化も懸念される時もあり、距離を置く等の対策も行ってはいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	夏祭り等のイベントへの参加の案内状を出すなど関係を断ち切らないような取り組みを心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	大半の利用者が希望、意向の訴えをすることが出来ない。その時、その瞬間に見える笑顔がより多くなるようなケアに努めている。	個別ケアの場面や会話のなかで、思いや意向を把握している。意志表示が困難な人が多いが、表情や仕草を観察し、希望や訴えを把握できるように努め、笑顔のたえない暮らし方ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からなかなか聞き取りが出来ないので、面会の家族等から色々な角度から質問し、情報を引き出す工夫をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者の観察をし、異変や特変があれば職員間で報告、相談をして皆で共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づいた事、変化があった事等は申し送り、個別の介護記録に記入し、全員で検討し方針を決定している。計画作成者はその内容を踏まえ家族等とも相談している。	本人の状態や家族の意向に応じて、モニタリングを行い、その結果を計画に反映させている。さらに、家族を含め、関係者でカンファレンスを行っている。本人の意思を尊重し、自分らしく暮らせるように、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記入し、それをもとに他職種間で話し合い方針を決定している。申し送りノートにて他全ての職員に伝達している。統一したケアの実現により近づく方法だと認識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出がしたいと言われれば、職員の人員を手厚く配置し買い物に出かけたり、寺にお参りがしたいと言われれば夕刻でも出かけたりするような柔軟性を持つようにしている。		

岐阜県 グループホーム こすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学6年生が、授業の一環で福祉に関する勉強を行っており、同法人のデイサービスと共同で交流会を実施している。今年に入って2回、デイサービスまで外出を兼ねて出向き、デイサービスの利用者とも交流しながら楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は家族にも協力して頂いている。訪問診療も行っており、週に一度診察を受ける安心感を得られると家族にも好評を頂いている。ターミナルに近い利用者には今年5月より深夜でも対応して頂ける他の訪問診療も利用しながら安心して生活して頂けるよう支援している。	個々に、かかりつけ医があり、継続をしている。協力医による訪問診療と歯科医の訪問体制がある。医療情報と身体情報は、関係者で共有しており、緊急時の対応も適切に行っている。	さらに、重度化に向けた医療支援の充実と家族との協力関係が整うことを期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体的変化はすぐに看護師に報告している。看護師が休みの時でも電話連絡をし、指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院期間中でも面会回数を増やし、身体状況を都度確認し、職員間で情報を共有している。面会時に病院関係者と話す機会も増え、自然に情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針がある。家族の面会時に、今考えられるリスクを説明している。利用者の死生観、家族の死に対する意見も聞くようにしている。終末期に該当される利用者があり、出来るだけ利用者本人が安心して過ごして頂けるような配慮を心がけている。	契約時に、重度化や終末期の方針を説明し、本人・家族の同意を得ている。段階的に、家族と関係者で充分相談し、対応策を選択している。終末期は、医師の助言と家族の協力を得ながら、看取りの体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一昨年5月、事業者全員参加での、緊急時対応に関する勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年5月に地震を想定した避難訓練を実施しており、区長さんや近隣住民の方にも参加して頂き、協力体制を築いている。	災害訓練は、消防署指導の下で実施をしている。火災や地震、水害を想定した、避難誘導や通報、器具の扱い、消火など、詳細な訓練を重ね、実践力を身に付けている。また、住民の参加も得て、協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員と利用者は家族の一員との認識が強く、時として堅苦しい呼び方(呼称)をしない時があるが、一人ひとりの人格を尊重し、丁寧な言葉かけを心掛けている。	家族のような関係を築きながら、絆を大切にしている。高齢者を、人生の先輩として敬い、また、地域の貢献者でもあるので、誇りやプライバシーを損ねない、丁寧な言葉かけで対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定は最優先している。しかし、職員の構成、力量から、その思いに添えない場合がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた時間(生活のリズムの確保)は仕方ないかもしれないが、時間的には自由裁量を行っており、ペースは大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装に関しては、家族が持参されて衣服を着用して頂いている。外出される時に何を着ていったらよいか職員に尋ね、うれしそうに服を選ばれる姿が見られ、職員も一緒に選んで決めて頂けるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部利用者には準備に参加して頂いています。干し柿作り、切干し大根作りなど季節感が味わえるような取り組みや食器の洗いや等出来る範囲で職員と一緒に取り組んでいる。	利用者は、テーブル拭きや配膳、下膳などを手伝っている。食材は、新鮮な旬のものを取り入れ、季節感を味わっている。また、干し柿作りや、切干大根作り、利用者の嗜好にあわせ、シソの葉ジュースづくり等を職員と共に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護、看護記録に食事・水分摂取量を記載し、職員は常に数値を意識している。医師の指示がある利用者には特に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは勿論のこと、定期的に訪問歯科診療を受けておられる方もあり、口腔ケアの大切さを認識している。		

岐阜県 グループホーム こすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体的にトイレでの排泄が可能な利用者にはトイレ誘導を行うようにしている。排泄前のサインや言動を見落とさないように注意している。	個々の排泄パターンやサインを見落とさず、昼夜共に、こまめな声かけ、トイレ誘導を行っている。トイレでの排泄の心地よさが実感できることで、排泄の自立を高めている。また、おむつ使用量の軽減にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて排便の有無を確認している。薬に頼ることもあるが、過去の病歴等から考慮し、服薬コントロールも必要な場合もあると思われる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一度の入浴を実施している。汚染時にはその限りではない。基本午前入浴となっているが、職員の確保が出来ず、午前、午後と二回に分けての入浴の時もある。午後から入浴を希望されている方は午後から入って頂くなどの配慮はしている。	浴場は、個浴と特殊浴を備えている。時間帯は、本人が選択し、習慣や好みにも応じている。汚染があれば、羞恥心に配慮して、適時、対処をしている。法人内デイサービスに大浴場があり、希望者は、楽しみながら利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	清潔で暖かい布団で眠って頂きたい。その思いから、シーツ交換表にて、布団の干し具合の管理も行っている。いつも清潔な布団を理想としている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関してはまず訪問診療等の医師が指示を出され、看護師が服薬セットを行い、飲み忘れが無いよう細心の注意を払って管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	信仰心が強い利用者は、雨天でない限りお寺にお参りするために外出している。花の水やりも朝、職員と一緒に外へ出て実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当グループホームの経営母体はお寺であり、その寺に行くことを楽しみにしている利用者がある。普段行けない場所へは、家族の協力のもと、外出支援を依頼している。	日常は、ウッドデッキで外気浴をしたり、庭を散歩している。母体である寺へも、頻繁に出かけ、季節ごとの外出計画では、家族と協力しながら実施をしている。地域の恒例行事には、家族も同行して外出支援をしている。	

岐阜県 グループホーム こすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	二名の利用者がお金を実際に所有している。お賽銭や飲料水の購入に充当している。お金を所有していない利用者への影響も考慮しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から家族への電話は家族の了承のもと、余り行わないようにしている。利用者が希望し、その内容が家族に伝える適当な内容と判断した際に家族にまず職員が電話を繋ぐことを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓から見える風景は季節の移り変わりを認識するには最適であると思われる。地元の田園風景が安心感を醸し出している。	建物は、木造で天井が高く、延焼を防ぐ二重構造である。窓越しに、住民の往来や田園風景が見えている。玄関や居間、トイレは、広く、ゆとりの間取りである。手づくり作品や季節の花を随所に飾り、落ち着いた、寛げる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の間でも口論が起きたりすることがある為、共有スペースを利用されている時は、距離を置いて座って頂く等の配慮も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は使い慣れた物を持参して頂くように依頼している。持ち込みに関して制限はしておらず、各利用者は自分の居室(自宅)との認識が高いと思われる。	居室の窓からは、馴染みの風景が広がっている。電動ベッドとクーラーは備え付けである。利用者は、使い慣れた整理タンスや、小物類を持ち込んでいる。家族の写真や季節の花を飾り、好みの部屋づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置を示す貼紙をしたりして自分の居室に迷わず戻ることができる等の工夫をしている。		